

接続検証結果報告書

株式会社昌新
株式会社バイオス

1. 目的

富士通社製 PRIMEPOWER 250 と RAID6 に設定した BIOS 社製 Excella208 との接続性を確認する。

2. 検証場所

株式会社バイオス

3. 検証日時

2006 年 11 月 13 日～11 月 24 日

4. 機器一覧

検証に使用したハードウェアを下記に記す。

4.1 PRIMEPOWER 250 の構成

型名	PRIMEPOWER 250
CPU	SPARC 64V 1100MHz x 2
メモリ	4096MB
HBA	PW008SC3A (Ultra320 SCSI)
OS	Solaris(TM) 9 OS 9/04 (SunOS 5.9 Generic_118558-28)
	Solaris(TM) 10 OS 1/06 (SunOS 5.10 Generic_118833-17)

4.2 Excella208 の構成

型名	FEX208U4-2508
外部インターフェース	Ultra320 SCSI
HDD	SATA
容量	250GB×8 台
RAID 構成	RAID6
使用容量	LUN0 750GB
	LUN1 750GB

5. 検証内容と結果

5. 1. ハードウェア接続確認

検証にあたってハードウェアの確認を実施した。接続形態を以下に記す。

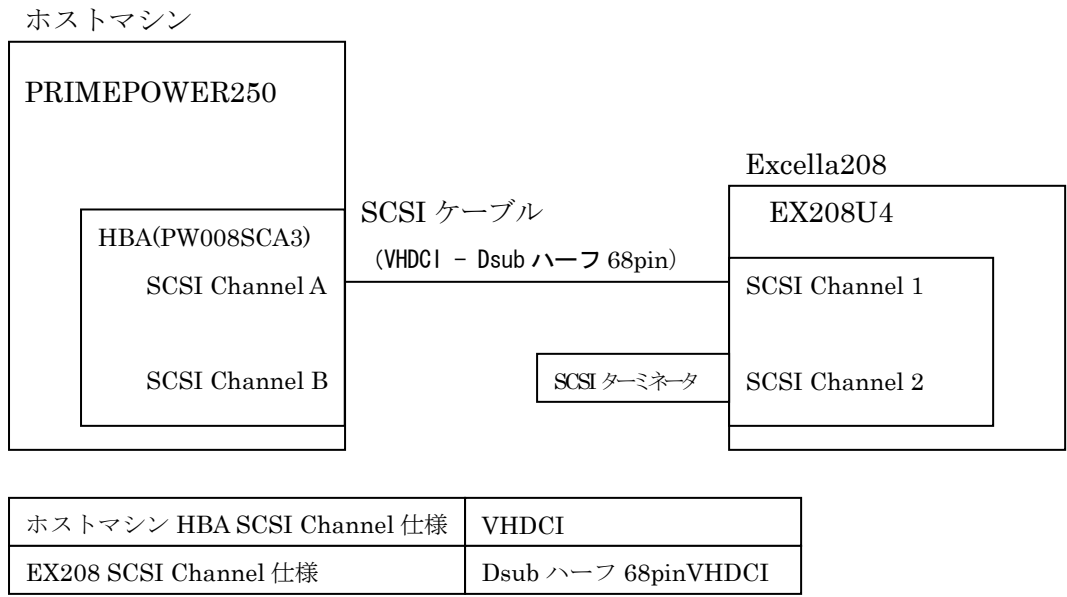


図 1.接続図

5. 2 接続認識の確認

PRIMEPOWER 250 の Boot Prom から probe-scsi-all コマンドを実行し、Excella208 を認識することを確認した。

下記の表示により接続認識が正常に行われることを確認した。

/pci@80, 4000/FJSV, ulsa@4

Target 5

Unit 0 Disk BIOS EX208U4-2508 210a

Unit 1 Disk BIOS EX208U4-2508 210a

5. 4 イニシャライズ動作処理

Excella208 に作成されたパーティションに newfs コマンドを実行。ファイルシステムが作成されることを確認した。

5. 5 マウント/アンマウント動作

mount および **umount** コマンドを実行し、**Excella208** をローカルディスクとしてマウント/アンマウントできることを確認した。

5. 6 再起動時のマウント確認

/etc/vfstab を編集し、ローカルディスクとしてオートマウントされるように設定。

PRIMEPOWER250 および **Excella208** の再起動を行い、再起動後に正常にローカルディスクとしてマウントされることを確認した。

5. 7 データのコピー動作

ローカルディスクとしてマウントした **Excella208** に、**10GB** のファイルのコピーを実行した。ファイルのコピーが正常に完了することを確認した。

5. 8 ドライブ擬似障害におけるアクセス動作

ホストより、データ書き込みを実施しながら **Excella208** の **HDD** を2本抜き取り、2台の **HDD** の擬似障害を発生させた。**Excella208** において、データ書き込みと読み込みが正常に実施されることを確認した。

5. 9 Excella208 の RAID 復旧動作

Excella208 の2本の **HDD** 抜き差し後、**RAID 6** 構成の復旧が完了することを確認した。

RAID 構成の復旧中、**5～50GB** のデータ書き込み、および、コンペアを繰り返し実行した。(ファイルサイズ：**128MB～1024MB** を使用して検証した)

5. 10 Excella208 への連続アクセス動作

5～50GB のデータ書き込み、および、コンペアを繰り返し行うスクリプトを作成。これを用いて **24 時間連続運転**において、正常動作を続けることを確認した。

(ファイルサイズ：**128MB～1024MB** を使用して検証)

6. 結論

以上の検証を行った結果から、富士通社製 **PRIMEPOWER 250** と **RAID6** に設定した **BIOS** 社製 **Excella208** が接続可能であると判断する。

7. お問い合わせ先

株式会社昌新 情報システム営業部

TEL: 03-3270-5926

FAX: 03-3245-1695

E-mail: IS@shoshin.co.jp

以上